

授業概要

英語科教育法Ⅲまでで培ったことを実践する力を鍛える。教育実習と教員採用試験対策を中心に、模擬授業を行いながら理論と実践の接点を見出していくことが中心となる。日英語を問わず、関連の論文も読む。原則的に授業は英語で行うため、そのための家庭学習が必須となる。しかし文献と課題を指定するので、それらで準備してから受講すれば心配には及ばない。英語のプロを目指すのであるから、人の何倍も学ぶことは当たり前である。個別に丁寧に指導することで指導する。

授業計画

第1回	リスニングの指導法（集中的リスニング）
第2回	リスニングの指導法（対人的リスニング）
第3回	スピーキングの指導法（話し言葉の特徴）
第4回	スピーキングの指導法（指導のテクニック）
第5回	ライティングの指導法（要約法）
第6回	ライティングの指導法（ブレインストーミング法）
第7回	ティーム・ティーチング（教科書の活用法）
第8回	ティーム・ティーチング（効果的な役割分担）
第9回	測定と評価（客観テスト）
第10回	測定と評価（主観テスト）
第11回	測定と評価（個別項目テスト）
第12回	測定と評価（総合テスト）
第13回	CALL 教室の活用方法
第14回	E ラーニングと CALL 教室
第15回	インターネット教材を用いた、生徒による自己発信法への試み
第16回	学期末定期試験

到達目標

中高英語教員免許取得のために必要な実力の養成。英語教員には必須とされる素養がある。それは生徒の成長を心から願い、支援する教育者としての姿勢と、英語の専門家としての実力である。しかしこれらだけでは英語教員としては不十分である。本講座では、英語教育に関する論文を読み、模擬授業を通して実践的な力をつけることを目指す。

履修上の注意

授業は原則として英語のみで行いたいと思います。NHK のラジオ講座を教材の1つとして使用します（選定番組は受講者と相談）ので、これも活用して、毎日英語に触れる心構えを持つことが最低条件です。辞書は必携です。英語の勉強も含めれば、毎日学習するよう努力して下さい。これを楽しめることが必須条件です。教職を志すからには当然ですが、遅刻は厳禁。

予習復習

毎時間 reading assignment を出しますので、必ず予習のうえ、授業に臨んで下さい。予習を前提として授業を行います。授業時には復習のために、self-research を課し、評価の一部（下欄参照）に組み入れます。

評価方法

mid- & final test（50%）、presentation（20%）、quiz（10%）、report（10%）、及び self-research assignment を中心に予復習の有無（10%）を勘案して総合的に評価。

テキスト

『改定版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）
A New Approach to Understanding English Grammar (Asahi Press)